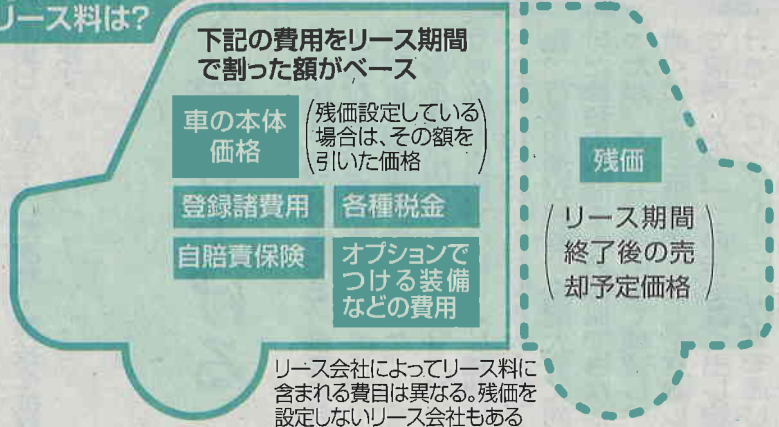


カーリース 注意点は？



カーリースのしくみは？

月々のリース料は？



費用の一例



車両本体価格約180万円のコンパクトカーを下記の条件で契約した場合

- ・契約期間5年
- ・月間走行距離500*km
- ・カーナビなどのオプション、車検費用込み
- ・残価=約36万円

毎月の支払額

3万9千円程度
任意保険代は別

リース期間終了後は？

精算して返却



別の車に乗り換え



契約延長



その車を残価(目安)で購入



ポイント

税金や保険などの手間が省け、支払額が毎月一定で管理しやすい

自分の好きな車(新車)に初期費用を抑えて乗れるようになるが、購入と比べ、トータルで安いとは限らない

事業主の場合はリース料を経費計上できる



車の使い方よく考えてから

けることが多いカーリース。初期費用を抑え、毎月一定のリース料で自分好みの車を自由
す。ただし、返却時に追加費用が必要になることがあるなど、注意も必要です。

利用者が毎月支払うリース料は、ど
う決まるのか？ 2017年10月から
カーリース事業「オートフラット」を
本格展開する出光興産(本社・東京)
は、次のように説明する。

オートフラットの場合、利用者が選
ぶ車のリース期間(3〜7年の1年単
位)、月間の予定走行距離などを勘案
し、「残存価格(残価)」を設定す
る。残価とは、リース期間満了時、返
却される車にいくらの価値が残ってい
るかを予測した金額だ。

残価を差し引いた車体の本体価格
に、登録諸費用のほか、自動車税もし
くは軽自動車税の環境性能割と種別割
を加える。これらを契約期間で割った
額が、リース料のベースになる。利用
者の希望に応じて2種類のメンテナ
ス付きのプランもあり、リース料は上
がるが、自賠責保険、車検費用、メン
テナンス費用などを含めることもでき
る。

一般的に、残価を高く設定すれば毎
月のリース料は安くなる。だが、精算
して返却する際に車の価値が残価を下
回った場合、差額負担を求められるケ
ースもあるので注意が必要だ。



◆ 必要なサービス 吟味を

各種税金などの支払いが不要
・ 短期間で車を乗り換えたい
・ 新車や色々なタイプの車に乗れる
・ いつでも自由に使いたい
レンタカーやカーシェアリングと違
い、自分が使いたいときに使える
逆に、向いていないのは、車を自分
好みに改造したい人。契約で改造を禁
止しているリース会社もある。改造を
禁止していなくても、返却時に元の状
態に戻すことを条件にしていたり、査
定価格が下がったりすることもある。
走行距離が長い人にも向かない。契
約期間満了後の車の査定価格が落ちる
ためだ。あらかじめ設定された走行距
離を超えた場合、精算時に追加の支払
いが必要になることもある。

しっかり検討し、見積もりを出しても
らうよう、黒澤さんは勧める。



最近、テレビCMなどで見か
に使えることが支持されていま

カーリースが向いているのはどんな
人なのか？ ファイナンシャルプラン
ナーの上級資格（CFP®）を持つ黒
澤佳子さんは、5点をあげる。

・初期費用を抑えたい

購入と違い、原則、頭金を用意する
必要がない。登録諸費用なども月々の
支払いで均等割られる

・月々の支払いを一定にしたい

家計の管理が楽

・面倒な手続きを避けたい

購入より割高な場合も

契約にあたり、黒澤さんは「車を購
入するより、トータルでは高額になる
こともある」ということを頭に入れてお
いてほしい」と話す。

途中解約すると、数カ月分のリース
料など解約金の支払いを求められるケ
ースが多い。また、車を傷つけてしま
うと査定価格が下がり、追加の支払い
を求められることもある。設定された
残価はあくまでも契約時の予測であ
り、返却時の車の状態や、市況によっ
ても変化する。

リース料に含まれている費目をしっ
かり確認することも重要だ。車検やメ
ンテナンス費用、任意保険代など、リ
ース会社によって基本プランに入る費
目が異なる。オプション契約などによ
って、基本プランに入っていない費目
を月々のリース料に含められる会社も
あるが、その分、料金が上がると考え
た方がよい。自分に必要なサービスを

カーリース市場は拡大傾向が続いて
いる。日本自動車リース協会連合会に
よると、個人リースは今年3月末時点
で約30万8千台。5年前に比べ2倍以
上に伸びた。新規参入も増えており、
各社は様々なサービスを提供し、顧客
の獲得に努めている。

オートフラットは契約プランにもよ
るが、系列のガソリンスタンドで給油
すると、1リットルあたり最大7円（1カ月
につき100リットルが上限）値引きするサ
ービスを導入している。

高齢化社会にあわせたサービスを提
供している会社もある。今年7月から
全国展開しているトヨタ自動車系列の
「KINTO」（本社・名古屋）で
は、個人契約者が免許を返納したり、
死亡したりした場合、途中解約しても
追加精算金が発生しない。海外転勤に
なった場合も同様だ。同社は「高齢者
が車を買いかえようとすると、家族に
反対されるケースもある。海外転勤の
可能性があつて購入やリース契約に二
の足を踏んでしまう人もいる。そんな
不安を解消するための契約内容です」
と説明する。

カーコンビニ倶楽部（本社・東京）
は、車椅子に乗ったまま乗車できる福
祉車両をリース対象車に加えている。
スロープ付きのタイプもあり、自転車
なども積み込み、レジャーなどにも向
いている。

黒澤さんは「自分のライフスタイル
には、どんな車の所持、利用方法が向
いているのか考えてみてください」と
アドバイスする。

（井上道夫）